

# 伊勢湾台風

長島町の堤防は15カ所で破堤。当時の人口8,708人のうち383名が死亡。  
流出及び全壊家屋476戸。半壊家屋582戸

## 伊勢湾台風被害写真



撮影 昭和34年9月28日  
縮尺 約 1:13,000  
国土交通省 木曾川下流河川事務所

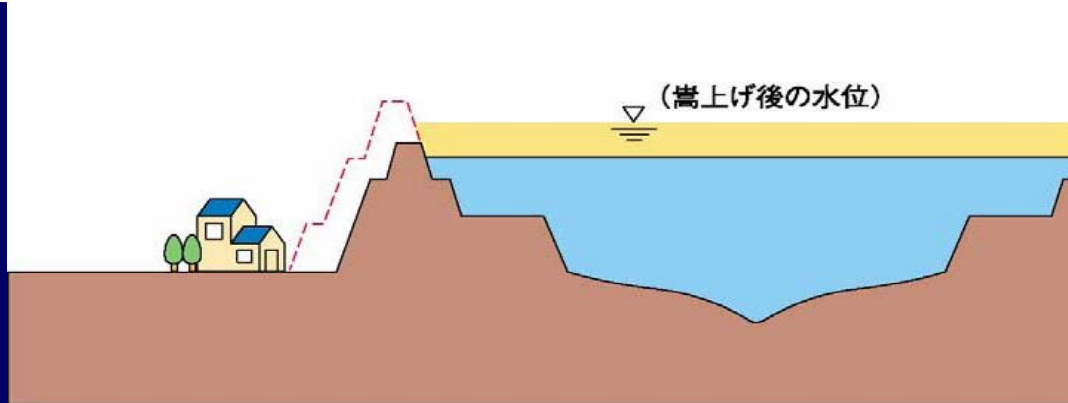
# 長良川河口堰の必要性

## 河川の断面積を増大させる方法

### ●堤防嵩上げ

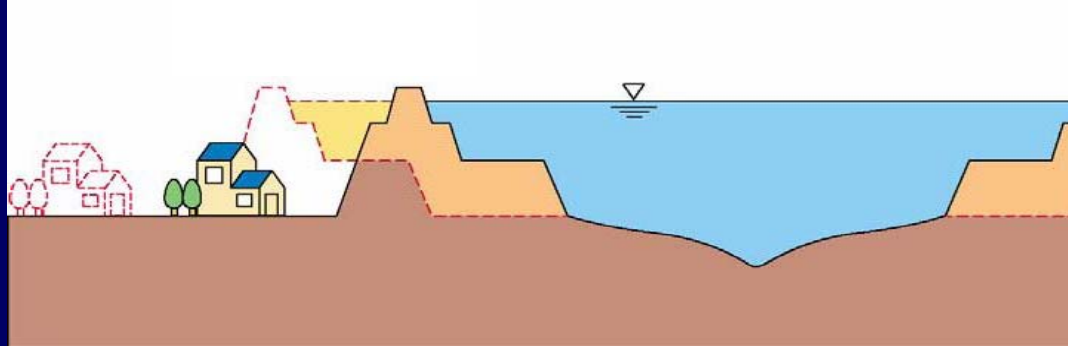
高い水位で洪水を流すことになり、万一破堤したときの被害が大きくなる。

また、新幹線など橋梁の架け替えが必要となる。



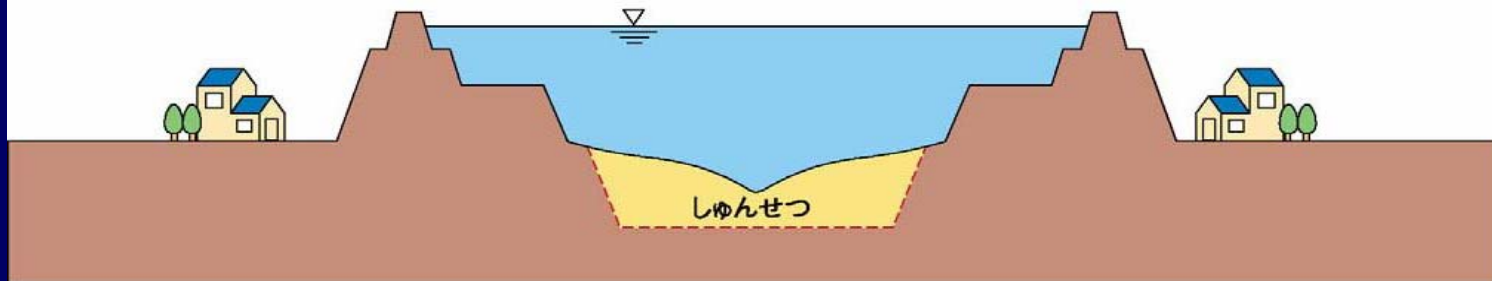
### ●引堤

川沿いの貴重な土地や多くの家屋移転が必要となる。



### ●しゅんせつ

河川内の工事であり、比較的短期間に実施でき、最も優れた方法である。

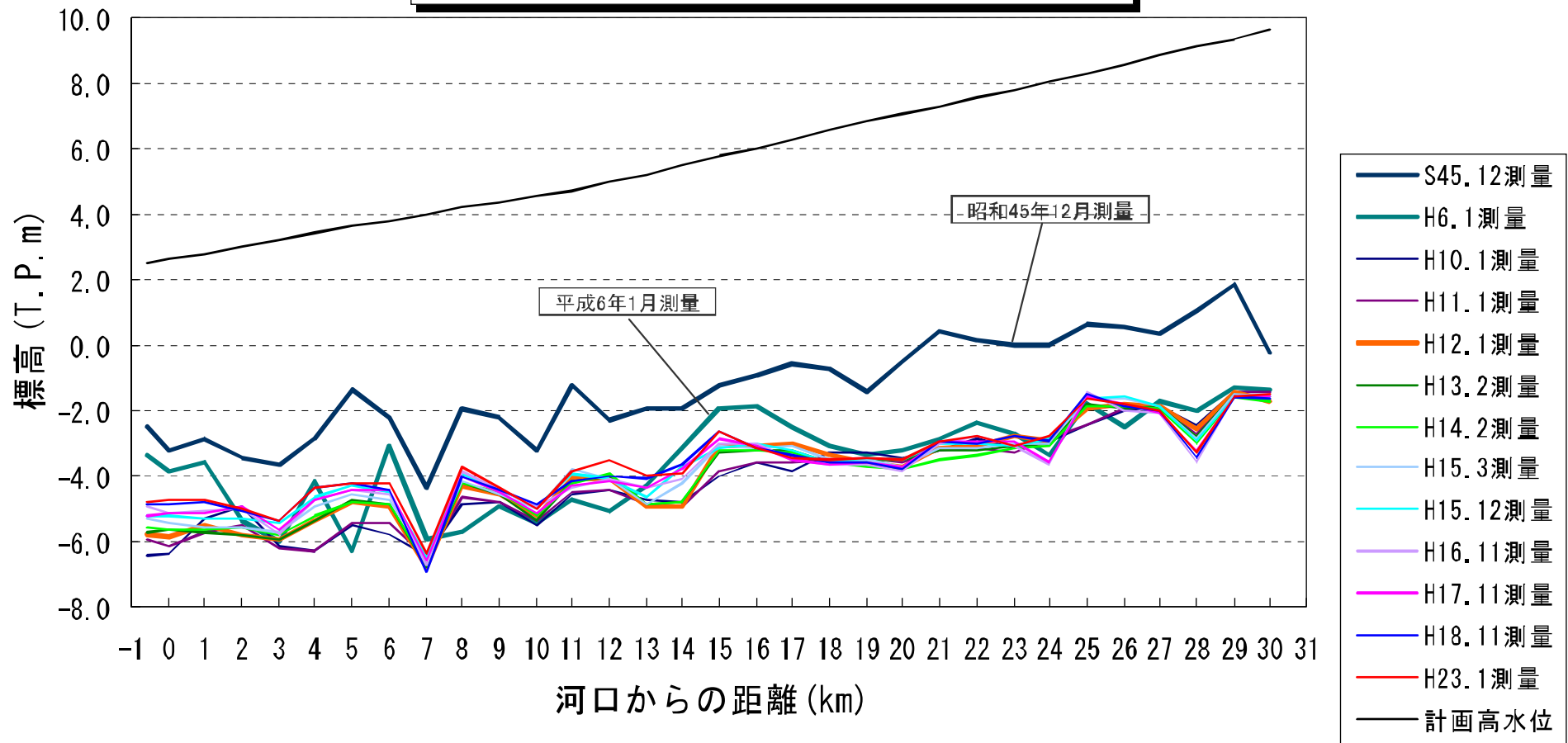


# 資料7:長良川の平均河床高の経年変化

※長良川河口堰に関する基本的な考え方  
【説明資料】より抜粋

- 浚渫後の長良川下流部の河床高は、一部堆積傾向がみられるものの、浚渫前と比べ大幅に低下している状況に変わりはない。
- 今後とも、河道の堆積状況について注意深く監視を続け、河床変動の動向について検討し、治水上の支障が明らかになれば、必要な対策を実施する予定。

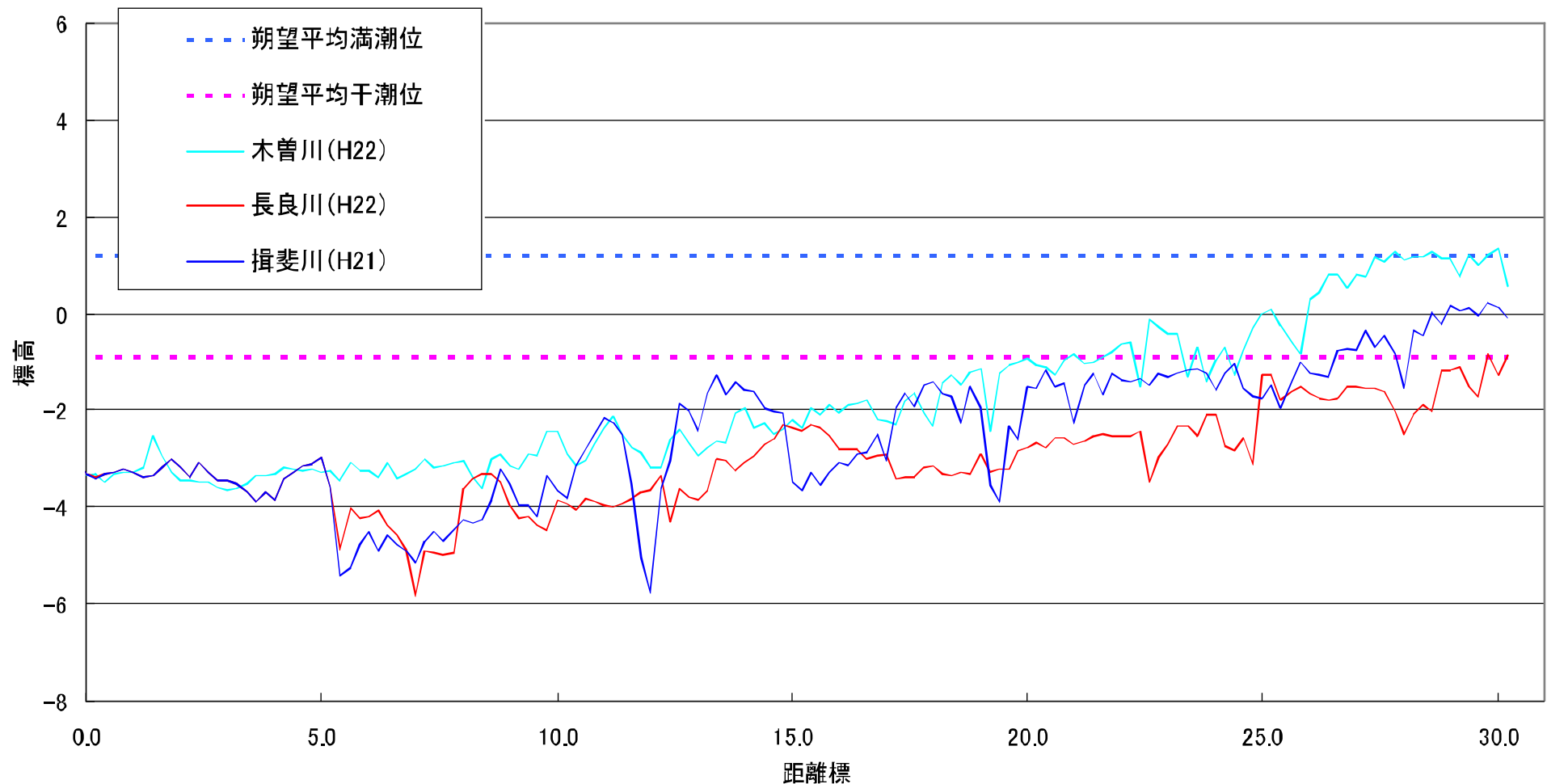
長良川平均河床高(しゅんせつ範囲内平均)縦断図



# 資料11:木曽川・長良川・揖斐川の平均河床高

※長良川河口堰に関する基本的な考え方  
【説明資料】より抜粋

○長良川では大規模浚渫により、木曽川、揖斐川に比べて河床が大幅に低下しており、木曽川、揖斐川に比べ、長良川では塩水が遡上しやすい状況にあり、河口堰を開門すれば30km付近まで塩水が遡上するおそれ。



資料:最新の定期横断測量結果より、木曽三川の河床高を重ね合わせて作成(河口~30K付近)